令和六年度　大阪信愛学院高等学校　入学試験　国語　問題用紙

（問題用紙５枚、解答用紙１枚）

・問題の作成上、文章の一部を省略した部分や、表現・表記を改めた部分がある。
・字数制限は、指定した問題以外は句読点、記号を含むものとする。
・答えはすべて解答用紙に記入すること。

受験番号

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ベルリンの南西郊外にあるポツダムの緑の丘陵に、十八世紀にフリードリッヒ王が建てたロココ式様式のサンスーシ宮殿（※1）がある。サンスーシとはフランス語で「憂(a)いのない」という意味だ。なるほど、黄色い宮殿の壁面を飾る人物の顔はみな憂いもなく微笑んでいる。

東洋でも憂いなき顔が見られる。タイのアユタヤ王朝の遺跡に残されたワット・ロカヤスタの石仏（※2）は涅槃（ねはん）仏をうつした姿だといわれ、やはり微笑んでいる。日本の仏像にもほのかに微笑んでいるように見えるものもあるが、このアユタヤの涅槃像の微笑みは、笑いに近い表情だ。涅槃というより悟りの境地にも、微笑みがともなう。

文化・芸術・宗教と接する人の表情に微笑みが生まれるのは、人々が自身のこころを接する対象に反映させ、共感を導くからだろう。微笑みは憂いを癒（いや）し、共感をもたらし、最後に魂をキュウサイ(b)する役割も果たしている、といえそうだ。「笑う X には福来る」ということわざがあるが、これは「微笑む X には福来る」ともいえるだろう。

社会的存在としての人間は他者との関係性とのなかで生きてゆかねばならないから、微笑みは自身を社会のなかに安定的にイジ(c)していくのに重要な心の機能、身体のすばらしい技能のひとつだともいえそうだ。

しかし、歴史的に、笑い（laugh）に対して微笑み（smile）はヨクセイ(d)された低い笑いであるとみなされてきた。フランス語でも（rire）に対する微笑（sourire）、ドイツ語にも笑い（lachen）に対して微笑み（lächeln）という表現があるが、両者は程度の差として表現されてきたようだ。現在でも、やはり微笑と笑いを（　A　）な軸でとらえ、程度の違いと考える見方もある。だが、進化的には異なるケンカイ(e)もある。「笑いは快や楽しさに由来し、自動的・無意識的であるのに対して、微笑みは社交的な笑いであり、（　B　）・意識的である。①微笑みは相手に対して敵意がないことを示す従属をその起源に持つ」というものだ。微笑みには、相手に賛同するとか合意する、あるいは相手を認める、という意味も含まれる。ヴィーナスやモナリザの微笑は、社交的な笑いになるだろう。

快の笑いと社交的な微笑みがもともと進化的には異なることが、人間と似た社会環境に生きる霊長類の観察によっても報告されている。オランダのファンフーフによれば、霊長類の笑いは遊びの中で丸く口を開き音声を発する笑いと、自分より強い仲間に見せる歯をむき出しにした表情の二種類があるという。後者が従属の表出としての微笑みだと考えられるのだ。人間の子どもでも三、四歳になると笑いに続いて、愛想笑いという社交的な笑いが見られるようになるという。

②このような見方に立つと、人間は自己充足的な楽しさの笑いと、従属と同意の意思表現としての微笑みを使い分けて、豊かな社会性を育んでいるともいえそうだ。前者は「（　C　）笑い」、後者は「（　D　）笑い」の原型といってもよいだろう。微笑が癒しとなるには、同意に基づく相互寛容や共感が生まれる必要がある。

（『笑い脳　社会脳へのアプローチ』苧阪直行）

※1　ロココ式様式…十八世紀、フランスを中心にヨーロッパで流行した装飾様式。繊細さ、優美さを特徴とする。

※2　涅槃仏…釈迦が入滅する（死ぬ）際の姿を表現した仏像のこと。体の側面を下にして手で頭を支える姿で表現される。

問一　二重傍線部（a）～（e）のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに改めなさい。

問二　X に共通する漢字一字を答えなさい。

問三　（A）～（D）に適切な言葉を次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　一元的　　イ　社会的　　ウ　生物的　　エ　意図的

問四　傍線部①「微笑みは相手に対して敵意がないことを示す従属をその起源に持つ」とあるが、人間の微笑みがこのような起源を持つというのはなぜか。文中から四十字以内で探し、始めと終わりの五字を抜き出しなさい。

問五　傍線部②「このような見方」とは、どのような見方のことか。次のア～エのうち最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア　快や楽しさに由来する笑いと社交的な微笑みは、もともと進化的には異なるという見方。

イ　霊長類の笑いには音声を発する笑いと、歯をむき出しにする笑いの二種類があるという見方。

ウ　霊長類の歯をむき出しにする表情は、相手に従属することを表す微笑だとする見方。

エ　霊長類と同じように、人間の幼児にも楽しさの笑いと愛想笑いという社交的な笑いがあるという見方。

問六　「笑い」と「微笑み」の違いを端的に表現した部分を文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問七　人間は「笑い」と「微笑」をどのような方法で使用して社会生活を営んでいるのか。文中の言葉を用いて四十五字以内で答えなさい。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

主人公の「僕」と友人の金崎文彦はともに中学一年生。「僕」は希望して入部した野球部になじめず、また、金崎文彦もサッカー部を退部したばかりだった。ある日、二人は虫取りに出かけ、金崎からあだ名の「カナブン」の由来を聞かされる。以下はその最初の場面である。

「今日みたいに虫取りに来たときのことさ。カブトムシやクワガタを採りに来て、カナブンしかいないと、みんながっかりするんだ。カナブンには、カブトムシのような立派な角はないし、クワガタみたいなかっこいい大きな顎（あご）もない。捕まえようとすると、クソを漏らして逃げようとする。『なんだ、カナブンかよ』って馬鹿にされて、相手にされない。嫌われ者で、だれもほしがらない。なんだか自分に似ているな、と思った。

ひとりで森に行ったとき、おれはカブトムシやクワガタが見つからないと、①そんなカナブンを捕まえたんだ。虫かごはカナブンでいっぱいになった。それを見たやつが、気持ち悪がって、そのことを言いふらした。そういえばあいつは、カナブンに似ているとだれかが言って、おれはカナブンと呼ばれるようになった。――いらないやつ、という意味でさ」

「でも、おまえは小さいけど、②バック転もできるし、運動神経だっていいじゃないか」

僕は森を眺めながら口を挟（a）んだ。

「おれは、おれなりに努力したんだ。お袋に親父のこと、聞いたことがあるんだ。後ろ向きのとんぼ返りのうまい人だったって。それくらいしか、親父のことは知らないんだ。だからおれ、何度も何度も練習して、（　A　）バック転ができるようになった。『カナブン』と呼ばれて馬鹿にされると、よくバック転した。バック転すると、嫌なことも忘れることができるような気がしてさ」

カナブンの肩が揺れて、少し笑ったようだった。

「なんで『カナブン』って呼ぶなって、怒らなかったんだ」

「怒ったよ。おまえみたいに最初は嫌がった。(b)テイコウもしたさ。そうしたらある日、木に登っているところを上級生に見つかってからかわれた。逃げようとして、木から落っこちたんだ。落ちたところに、切り株から伸びた枝があって、頬っぺたを貫通した。それが、このえくぼみたいな痕(あと)さ。

みんな逃げやがってよ。血がたくさん流れた。痛くて、悔しくて、泣きながらひとりで家に帰った。姉ちゃんに病院に連れていかれて、口のなかを何針も(c)ヌったんだ」

カナブンの声に悔しさが滲(にじ)んだ。

――そうだったんだ。

(　B　)、こうも思った。そんなことといったら、野球部で余計者扱いされている今の自分だって、カナブンじゃないか、と。

「それじゃあ、③おれも、カナブンだな」

口に出して、そう言ってみた。

するとカナブンはふり返って、ぷっとふきだした。

「笑うなよ」

「ほんとに、そう思うのか」

「思うよ、④おれもカナブンだ」

僕はうなずいた。

そう認めてしまうと、なぜだか気が楽になった。それに、(　C　)金崎のやつは、自分に似ていると改めて思った。(　D　)気が短くて、運動能力は高いけど、集団行動というやつはかなり苦手だ。人に合わせることが下手で、それに(d)ガマンの足りないところもある。

「でもな――」

とカナブンは話を続けた。「ある日、おれは森のなかで、すげーぇきれいなカナブンに出会ったんだ。全身が青緑色に光り輝いているやつ。カシの木にとまっていて、手をのばしたけど、もう少しのところで届かなかった。宝石みたいにきれいなやつで、すぐにブーンって飛んでいっちまった。

⑤それからおれは、カナブンでいい、と思うようになった。人にどう思われようが、自分は自分なんだって。だからカナブンと呼ばれても、ちっとも動じなくなった。自分からニックネームはカナブン、と名乗るようになった」

「ふうん」

「おれはカナブンのなかでも、光り輝くカナブンになる。そう決めたんだ」

金崎文彦はまぶしそうに言うと、(e)クチビルを強く結んだ。

「そうか、そんなにきれいなカナブンがいるんだ?」

僕の口元が自然とゆるんだ。

「ああ、いるよ。おれはカブトムシより、クワガタよりも、そのカナブンにもう一度会いたい」

カナブンは右の頬に深いくぼみを刻んでいたが、笑っているわけではなかった。

⑥「じゃあ、おれたちは同じカナブンだな、今度、その宝石みたいなやつを捕まえに、また森へ来ようぜ」

僕は切り株から立ち上がった。

背中をまるめたカナブンが、薄い笑みを浮かべていた。

そのとき僕は、（　E　）自分で決めたのだと思う。人と同じであることにしがみつくのではなく、今いる場所ではないどこか別な世界を求めることを。かっこ悪くても、ひっくり返っても、もがきながら、もう一度カナブンのように起き上がり、飛び立とうと……。

僕は、二匹目のカナブンになった。

（『帰宅部ボーイズ』はらだみずき）

問一　二重傍線部（a）～（e）のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに改めなさい。

問二　（A）～（E）に適切な言葉を次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　けっこう　　イ　たぶん　　ウ　ただ　　エ　なんとなく　　オ　やっと

問三　傍線部①「そんなカナブン」とあるが、どんな意味でこのように言っているのか。文中の言葉を用いて二十字程度で答えなさい。

問四　傍線部②「バック転もできるし」とあるが、金崎がバック転をする理由として適切なものを次のア～エからすべて選び、記号で答えなさい。

ア　父親が後ろ向きのとんぼ返りが上手だったと聞き、父親を身近に感じたかったから。

イ　自分のことを「カナブン」とからかう相手に、自分の得意技を見せつけたかったから。

ウ　誰にも相手にされない自分にできることは、バック転ぐらいしかなかったから。

エ　「カナブン」と馬鹿にされた悔しさを忘れられるように感じたから。

問五　傍線部③「おれも、カナブンだな」④「おれもカナブンだ」⑤「おれは、カナブンでいい」⑥「おれたちは同じカナブンだな」について、次の各問いに答えなさい。

1　四つの会話文のうち一つだけ話し手が異なるものがあるが、どれか。番号で答えなさい。

2　⑥「おれたちは同じカナブンだな」とあるが、どういうところが同じだと言っているのか、答えなさい。

問六　波線部「ちっとも動じなくなった」の意味として適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　全然身体の動きがきかず、固まるようになった。

イ　まったく相手に怒ったり、テイコウしたりしなくなった。

ウ　少しも心の落ち着きを失うことがなくなった。

エ　心の平静は保てなかったが、まったく表面に出さなくなった。

問七　「僕」が現状から抜け出そうと決意していることを比喩を用いて表現している一文を文中から抜き出しなさい。

三　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある池の中に、蛇と亀、蛙（かえる）※1と知音（ちいん）にて住みけり。天下旱（ひでり）して、池の水も失せ、食物（じきもつ）も無くして、飢（a）るんとして、つれづれなり※2

ける時、蛇、亀もて使者として、蛙の許へ「時のほどおはしませ。見参せん」と言ふに、蛙、返事に申しけるは、「飢渇にせめらるれば、仁義を忘れて食をのみ思ふ。情けも好みも世の常の時こそあれ。かかる比なれば、え参らじ」とぞ返事しける。げにもあぶなき見参なり。

※3 (b)　(c)　①　②　③　④　※4

※1 知音…知り合い。友人。

※2 つれづれなりける時…他に何もすることがない状態の時。

※3 時のほどおはしませ。見参せん。…ちょっとの間お越しください。お目にかかりたい。

※4 げに…本当に。

（『沙石集』日本古典文学全集より）

問一　二重線部（a）「飢ゑん」（b）「おはしませ」（c）「言ふ」を現代仮名遣いのひらがなに直しなさい。

問二　傍線部①「思ふ」とあるが、誰が思っているのか、次のア～エから適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア　蛇　　イ　亀　　ウ　蛙　　エ　作者

問三　傍線部②「情けも好みも世の常の時こそあれ」について、次の各問いに答えなさい。

1　意味として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　情けをかけるのも親しく付き合うのも、自分が元気なときのことだ。

イ　情けをかけるのも親しく付き合うのも、自分に利があるときのことだ。

ウ　情けをかけるのも親しく付き合うのも、普通に暮らしているときのことだ。

エ　情けをかけるのも親しく付き合うのも、友が困っているときのことだ。

2　傍線部②から、(1)係り結びになる助詞を抜き出しなさい。また、(2)文中から(1)以外の係り結びになる助詞を抜き出しなさい。

問四　傍線部③「かかる比なれば」とあるが、どのような頃だというのか。文中から四十字以内で探し、始めと終わりの五字を抜き出しなさい。

問五　傍線部④「え参らじ」は「訪問することができない」という意味だが、なぜか。十字以内で答えなさい。

問六　波線部「つれづれなり」という語に由来する鎌倉時代の随筆の作品名を漢字で答えなさい。

令和六年度　大阪信愛学院高等学校　入学試験　国語　解答用紙

一

問一
(a)
(b)
(c)
(d)
(e)

問二

問三
A
B
C
D

問四
〜

問五

問六

問七

二

問一
(a)
(b)
(c)
(d)
(e)

問二
A
B
C
D
E

問三

問四

問五
1
2

問六

問七

三

問一
(a)
(b)
(c)

問二

問三
1

問四
〜

問五

問六

2
(1)
(2)

受験番号

得点

令和六年度　大阪信愛学院高等学校　入学試験　国語　解答用紙　模範解答

一

問一 (a)うれ　(b)救済　(c)維持　(d)抑制　(e)見解　②×5

問二 門 ②

問三 A ア　B エ　C ウ　D イ　③×4

問四 社会的存在〜らないから ③

問五 ア ②

問六 快の笑いと社交的な微笑み ③

問七 自己充足的な楽しさの笑いと、従属と同意の意思表現としての微笑みを使い分けるという方法。 ④

二

問一 (a)はさ　(b)抵抗　(c)縫　(d)我慢　(e)唇　②×5

問二 A オ　B ウ　C エ　D ア　E イ　②×5

問三 嫌われ者で、だれもほしがらないという意味。 ④

問四 ア エ ③

問五 1 ⑤ ②　2 人と同じではなく、自分自身で決めたことを実行し、前に進むところ。 ④

問六 ウ ②

問七 僕は、二匹目のカナブンになった。 ③

三

問一 (a)うえん　(b)おわしませ　(c)いう　②×3

問二 ア ②

問三 1 ウ ③　2 (1)こそ　(2)ぞ　③×2

問四 天下旱して〜なりける時 ③

問五 蛇に食われるから。 ④

問六 徒然草 ②

受験番号
得点